

# 埋蔵文化財調査センター ニュースレター

## 埋蔵文化財調査センターの開設にあたって

埋蔵文化財調査室は本年度4月から学内共同施設（特定業務施設）として、名称も「北海道大学埋蔵文化財調査センター」に改めて、新たなスタートをきりました。

北大札幌キャンパスはその全域が遺跡であり、「K39 遺跡」「K435 遺跡」「C44 遺跡」として遺跡台帳に登載されています。地下の改変を伴う工事の際には、それに先立って遺跡を保護するための調査を実施することが法令で定められています。これを緊急発掘調査といいます。新たな教育と研究の展開のためにキャンパス内では教育研究棟の新設や改築が年々増加する傾向にあります。これまでの体制での緊急調査だけではそろそろ限界に近づいていました。

前身となる埋蔵文化財調査室は中央道路の舗装工事や恵迪寮建設に際しての緊急調査の実施にともなって、1980年に設立されました。爾来30年余にわたってキャンパス内での調査を行ってきましたが、その成果も着実に蓄積されてきました。地下1～2mには千年ほど前の擦文文化の遺跡が、そして地下2～3mには二千年ほど前の続縄文文化の遺跡が埋蔵されている実態が明らかになりつつあります。今後は、緊急調査に対応するだけでなく、これまでの成果を整理・活用して、キャンパス内での埋蔵文化財の調査を計画的に実施して、遺跡群の全容を解明するとともにその保護に努めます。これによってキャンパス内での再開発工事もより円滑に進めることができるようになりますと期待しております。

永い歴史を背負った都市部にあっては、現在そして将来にわたって継続的に実施される再開発の際に、地下に眠る埋蔵文化財との衝突は避けて通れません。京都、東京そして札幌も例外ではありません。それを「余分な負担」と考えるのではなく、新たな「学術資源」を探し出して「地域資源」として活用するための文化的・学術的な〈投資〉であると理解して活動を展開することによって、その価値と評価は一変します。その実践的な試みがまさに北大キャンパス内で展開されます。学術・地域資源としての埋蔵文化財の保護・活用と都市再開発に向けての効果的な対応策との調和を図った『埋蔵文化財調査の〈北大モデル〉』の構築を目指して、今後の活動を展開いたします。

（埋蔵文化財調査センター長 小杉 康）

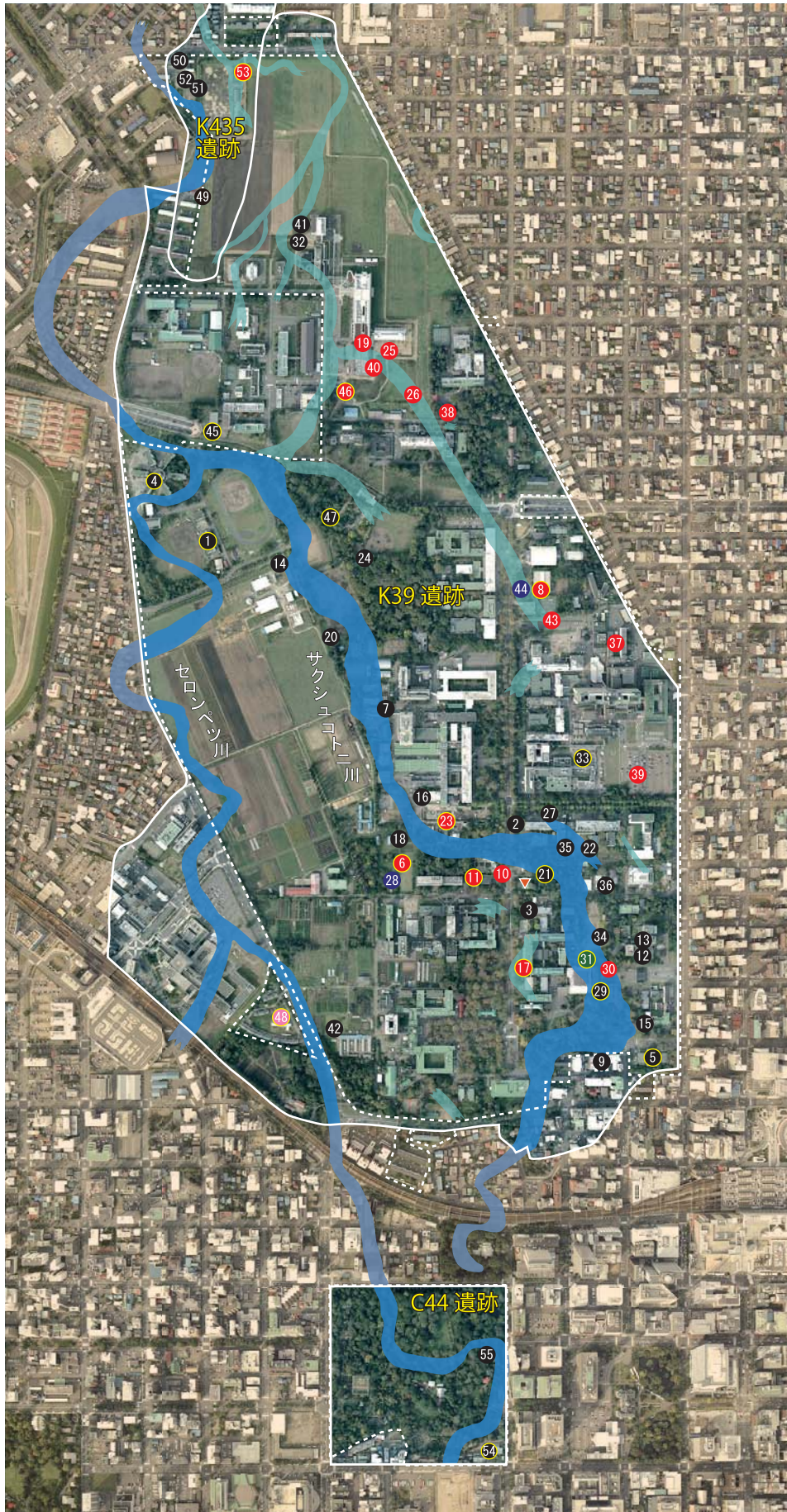


▲北海道大学埋蔵文化財調査センター



▼展示室

# 北大構内の遺跡



- ▽ 埋蔵文化財調査センター
- サクシュコトニ川とセロンベツ川
- サクシュコトニ川の周囲で発見された埋没河川(旧河道)
- 縄文      ● アイヌ文化期
- 続縄文      ● 近現代
- 擦文
- サテライトサインのある地点

- ▽K39遺跡
- 1 サークル会館[No.2]
  - 2 応用電気研究所
  - 3 共同溝調査センター南
  - 4 恵迪寮(サクシュコトニ川)[No.3]
  - 5 学術交流会館(中講堂)[No.6]
  - 6 ポプラ並木東地区[No.5]
  - 7 工学部核磁気共鳴装置研究棟
  - 8 学生部体育館[No.7]
  - 9 アイヌ・先住民研究センター(職員厚生施設)
  - 10 共同溝中央道路
  - 11 エンレイソウ(ゲストハウス)[No.8]
  - 12 地球環境科学研究科研究棟第1
  - 13 地球環境科学研究科研究棟第2
  - 14 西門
  - 15 本部裏
  - 16 工学部J・I棟間
  - 17 人文・社会科学総合教育研究棟[No.13]
  - 18 バンデグラフ加速器室南
  - 19 創成科学研究棟南
  - 20 サッカー・ラグビー場
  - 21 弓道場[No.15]
  - 22 薬学部研究棟
  - 23 工学部共用実験研究棟[No.16]
  - 24 更衣室
  - 25 北キャンパス道路地点北地区
  - 26 北キャンパス道路地点南地区
  - 27 南キャンパス研究棟B棟北
  - 28 畜産製造実習室新営工事
  - 29 附属図書館本館再生整備[No.18]
  - 30 附属図書館本館東周辺道路・東防火水槽
  - 31 附属図書館本館北東[No.14]
  - 32 北キャンパス総合研究棟6号館
  - 33 医学部陽子線研究施設[No.17]
  - 34 附属図書館ガス引込工事
  - 35 薬学部ファーマサイエンス研究棟
  - 36 薬用植物園
  - 37 大学院ゼミナール棟
  - 38 獣医学部総合動物医療センター新営電気設備
  - 39 大学病院雨水排水施設整備
  - 40 人獣共通感染症研究拠点施設
  - 41 国際科学イノベーション拠点施設
  - 42 農学部実験実習棟
  - 43 医学部地区雨水排水施設整備
  - 44 グローバル教育棟新営工事
  - 45 エルムトンネル(K39第6次)[No.10]
  - 46 第2農場倉庫(K39第9次)[No.12]
  - 47 遺跡保存庭園[No.1]
  - 48 桑園国際交流会館[No.9]
- ▽K435遺跡
- 49 馬術部馬道
  - 50 南新川独身寮
  - 51 南新川国際交流会館
  - 52 南新川国際交流会館外溝
  - 53 馬術部馬場(K435第2次)[No.11]
- ▽C44遺跡
- 54 農学部附属植物園温室[No.4]
  - 55 植物園収蔵庫
- ※[No.]はサテライトサインの番号

▲実線は埋蔵文化財包蔵地範囲、破線は北海道大学敷地範囲。



▲遺跡の発掘調査。土を掘り下げ、遺構や遺物の有無を確認する。

## 発掘調査

調査センターは、開発工事によってキャンパス内に包蔵されている遺跡が損なわれないように保護するため、緊急発掘調査と計画調査を行います。そして、調査で得られた遺跡のデータや遺物を大切に保管し、研究・教育のための学術資源として活用しています。また、それらの調査成果を報告書としてまとめ、刊行物やホームページなどで一般に公開しています。

## 発掘調査現地説明会

▲農学部実験実習棟地点での現地説明会

発掘調査の期間中には、進捗状況にあわせて発掘現場を公開し、学生・教職員・一般市民の方々に調査成果を解説する現地説明会を随時開催します。開催のお知らせは、当センターや北海道大学のホームページを通して行います。調査中の遺跡を間近で見学できる貴重な機会ですので、お気軽にご参加ください。



▲遺跡巡りとともに自然を満喫

▶復元された土器



## 展示室

## 遺跡トレイルウォーク

毎年夏と秋の2回、北大キャンパス内にある遺跡の詳細を記したサテライトサイの坏（擦文文化：9世紀）といった本州から運び込まれた遺物、河川を、その時々テーマに基づいて、川をせき止めサケを捕獲する際に利用した木杭（定置漁具の部材）、魚類・ほ乳類の焼骨片、炭化した穀物類（アワ・ヒエなどの種子）を常設し、サクシュしています。開館時間は平日の9時から16時30分までとなります。また、ニュコトニ川とセロンペツ川沿いに残された生活の痕跡や、当時の地形と植生についても解説します。

北大キャンパスから出土した資料を展示しています。続縄文文化から擦文文化の土器・石器を中心として、続縄文文化後半（3世紀）に作られたガラス玉、文字が刻まれた須恵器の坏（擦文文化：9世紀）といった本州から運び込まれた遺物、河川をせき止めサケを捕獲する際に利用した木杭（定置漁具の部材）、魚類・ほ乳類の焼骨片、炭化した穀物類（アワ・ヒエなどの種子）を常設しています。開館時間は平日の9時から16時30分までとなります。また、ニュコトニ川とセロンペツ川沿いに残された生活の痕跡や、当時の地形と植生についても解説します。

▼第7回調査成果報告会の様子（学術交流会館）



## 調査成果報告会

毎年2月に行われる報告会では、発掘調査の成果をわかりやすく紹介します。会場内には出土した遺物を展示し、解説を聞きながら見学することもできます。また、考古学と関連の深い様々な分野の専門家をお迎えし、北大キャンパスの遺跡を理解する上で必要な特別講演会をあわせて実施します。

## 組織・スタッフ

### ・センター運営委員会

文学研究科・教授	小杉 康 (委員長)
副学長 (理事)	三上 隆
文学研究科・准教授	高瀬 克範
地球環境科学研究院・准教授	山本 正伸
理学研究院・教授	増田 隆一
農学研究院・教授	佐野 雄三
工学研究院・教授	石川 達也
総合博物館・教授	高橋 英樹

### ・北海道大学埋蔵文化財調査センター

センター長	小杉 康 (教授 考古学、物質文化論)
センター員	高倉 純 (助教 考古学)
	守屋 豊人 (助教 考古学)
	坂口 隆 (特定専門職員 考古学)
	本山 志郎 (特定専門職員 考古学)
	山田 由美子 (技能補助員)
	百々 千鶴 (技能補助員)



## 【お知らせ】第13回遺跡トレイルウォークの開催について

北海道大学埋蔵文化財調査センターでは、恒例行事となりました遺跡トレイルウォークを開催いたします。北大キャンパスに設置されているサテライトサインを巡りながら、センター員による解説と豊かな自然をお楽しみいただけます。テーマは『北大式土器を訪ねて』です。参加費は無料ですので、お気軽にご参加ください。



▲サテライトサインでの解説

日 時：2015年 7月25日(土)13：00～15：00  
(開場12：30)

集合場所：北海道大学学術交流会館2F 講堂  
札幌市北区北8条西5丁目

申し込み方法は、お電話・はがき・FAX・Eメールのいずれかにより下記の宛先まで、氏名・住所・電話番号をご連絡ください。また、ご一緒に参加される方がいらっしゃる場合は、その方のお名前もお知らせください。暑さが予想されますので帽子や日傘、飲み物などをご持参ください。

## 【企画展】

### 埋文センターに至る30年の歩み

埋文調査センターの新たなスタートを記念して、これまでに北大キャンパスで行われた60件余りに及ぶ調査の歩みを振り返る企画展を、当センター展示室にて行います。当時の発掘調査の様子を写真パネルや出土遺物とともにご紹介いたします。開催期間は、2015年7月25日から10月中旬までとなります。

北海道大学埋蔵文化財調査センターニュースレター第21号

発行：北海道大学埋蔵文化財調査センター  
〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目

電話：011-706-2671 FAX：011-706-2094

e-mail: hokudaimaibun@gmail.com

URL：http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~q16697/maibun/index.html

## 編集後記

調査センターへと改称して初となるニュースレターをお届けします。調査室時代からの通算では21号目ですが、センターでの創刊号ということで、これまでに発見された遺跡の分布図と、日ごろの活動の一端を紹介いたします。展示室も平日は常時公開しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。(本山)